美術博物館への行き帰りに
徳山駅 → 美術博物館12分　美術博物館 → 徳山駅3分
ちょい乗り100円 バス
動物園 ⟷ 徳山駅
午前9時～午後5時まで15分おきに運行
徳山駅前発〔00 15 30 45〕
美術博物館前発〔12 27 42 57〕
（パークアンドライド駐車場前）
おとな（中学生以上）
1日フリー乗車券
100円
バス内で販売しています。

Culture Information HANABATAKE
かるちゃあ通信
Art,Photo,History,etc.
花畠
2018(H30)Jun
6
No.278
発行　公益財団法人 周南市文化振興財団　山口県周南市徳山5854-41 (0834-22-8787) http://s-bunka.jp/top/
【美術博物館】山口県周南市花畠町10－16 (0834－22－8880) http://s-bunka.jp/bihaku/
【郷土美術資料館・尾崎正章記念館】山口県周南市富田永源（永源山公園内）(0834－62－3119) http://s-bunka.jp/kyoubi/

©Aardman animations 2016

Aardman PRESENTS
アードマン・アニメーションズ 設立40周年記念
ひつじのショーン™展

見どころ CHECK!

その1

テレビ画面の外側まで見られる!?

「ひつじのショーン」は子どもはもちろん、大人にも人気のクレイアニメです！ストーリーの面白さはもちろんですが、手作りのセット、パペット（人形）の精巧さ、こだわり…これが人気の理由のひとつでしょう。手作りの野菜や農機具などの小道具、実際に撮影で使用されたセットも、本展では展示します。アニメや映画で、画面に映らなかった箇所も見られるかもしれません！セットにちりばめられた制作スタッフの遊び心を発見するのも楽しみ方のひとつ♪きっとあなたも作品世界に引き込まれてしまうでしょう。

『ウォレスとグルミット　野菜畑で大ピンチ!』マルチ夫妻の裏庭　撮影用セットと小物、レジンキャスト製パペット

アニメの制作過程がわかる！

その2

粘土で作る「クレイアニメ」がどうやって制作されているのかが分かる展示内容になっています！制作過程の下絵やストーリーボード（絵コンテのようなもの）は、今にもキャラクターが飛び出してきそうな、楽しさ溢れる内容です。

（周南市美術博物館　学芸員　竹田陽子）

ショーンたちと撮影できるよ！

ロビーにはひつじのショーン、ティミー、牧羊犬のビッツァーとの記念撮影コーナーも！

会期　6/24 日 まで ※月曜休館
9：30～17：00（入館は16：30）

観覧料
一般　1,000円（800円）
大学生　800円（600円）
（　）内は前売および団体（20名以上）

18歳以下無料

夜間特別開館
6/8 金 は19:30まで開館します！
（入館は19:00まで）

北原照久コレクション ノスタルジックなおもちゃ箱

懐かしのおもちゃや広告ポスターが周南へ！ ～明治・大正・昭和 ～

「開運！なんでも鑑定団」でおなじみ、おもちゃコレクターとして知られる北原照久氏。彼のコレクションの中から戦前・戦後の懐かしくて温かみのあるおもちゃを一挙公開。セルロイド製の人形、乗り物やロボットのブリキ製のおもちゃをはじめ、広告関係のコレクションなど秘蔵の品々約1000点を展示します。

会期 7月6日(金)～9月2日(日)

9：30～17：00（入館は16：30まで）

休館日：月曜日　※ただし7月16日（月・祝）開館、翌17日（火）休館

◆特別開館　8月13日（月）

観覧料 一般：900円（750円）　大学生：700円（550円）

（　）内は前売および20名以上の団体　※18歳以下無料

※展示品は変更になる場合があります。

林忠彦生誕100年

第27回 林忠彦賞「川はゆく」藤岡 亜弥

第27回林忠彦賞受賞記念写真展「川はゆく」を5月11日から20日まで開催、開会に併せて受賞者の藤岡さんも来館されました。

5月12日のトークショーでは、学生時代から今日までの作品を見ながら、これまでの歩みを語られました。また「川はゆく」に込められた藤岡さんの想いも併せて聞かせていただきました。「広島」そして「ヒロシマ」を藤岡さんならではの視点で捉えた作品は、来場された方に強い印象を与えました。藤岡さんの今後のご活躍が楽しみです。

今後の受賞記念写真展

■東川展（北海道）写真の町・東川　**東川町文化ギャラリー**

11/28（水）～12/12（水）　会期中無休　10:00～17:30（最終日は15:00まで）

Sign〈屋内外広告看板〉

一般美術看板・電照看板・広告塔・ディスプレイ

ヒロナカ工芸

〒745-0845 山口県周南市河東町4-15　TEL (0834) 32-0818 FAX (0834) 21-7484

美博クイズ～！〈53〉　もんだい

喫茶まどでは企画展に合わせて期間限定特別メニューを提供して展覧会を盛り上げているよ。今回の「ひつじのショーン展」ではどんなメニューがあるのかな～？

★ヒント★「ひつじのショーン展」にぴったりのメニューだよ。

去年のシンジカトウ・ワールドでは「シンジカトウセット」をご用意しました♪

こたえはどこかのページにあるよ。さがしてみよう！

当館名誉館長で画家の宮崎進さん（周南市出身）が、
2018年5月16日に亡くなられました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

文化会館での「宮崎進展」（1989年）にはじまり、美術博物館では「所蔵品による宮崎進展」（1999年）、「宮崎進展　生きる意味を求めて」（2005年）を開催しました。
美術博物館では、現在、初期から晩年までの作品238点を収蔵しています。

2015年12月　鎌倉のアトリエにて

周南市美術博物館 常設展示室

■常設観覧料：一 般 200円（160円）　大学生等 100円（80円）（　）内は20名以上の団体
※18歳以下および70歳以上無料　※身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳、戦傷病者手帳等をご持参の方とその介護の方は無料
■休館日：月曜日　※「ひつじのショーン展」の観覧券で常設展も無料（～6/24）

展示室4　林忠彦記念室

生誕100年　林忠彦の仕事Ⅰ　～ドキュメンタリー　7/31（火）まで開催中

今年、生誕100年を迎えた林忠彦。12月まで3回に分けて林忠彦の足跡をたどります。
その第1弾として、戦前から戦後にかけての重要な記録ともいうべき、ドキュメンタリー作品を展示しています。林忠彦は、昭和17（1942）年、北京大使館の外郭団体として華北弘報写真協会を結成し、北京に渡りました。半年ごとに東京と北京を往復し、報道カメラマンとして戦場へ向かう兵士たちや軍需工場で働く女性たちなど当時の状況を撮影しています。終戦を迎え昭和21（1946）年に北京から日本に引き揚げてきてからは、東京で戦後の混乱期の人々の暮らしぶりを取材し、多くの雑誌に写真が掲載される売れっ子カメラマンとなりました。当時のことを林は次のように振り返っています。
「翌二十一年春に引き揚げてすぐ雑誌社まわりにけんめいに、まだ写真仲間が東京に出てきていないし、同僚も帰っていないときでした。どこの編集者も散り散りになってしまっている状態でしたが、まずは『婦人公論』で「上野」を撮ったことから始まりました。せんか紙の雑誌の仕事で印刷もひどいものでしたが、抑圧された社会から解き放たれたささやかな光明を求める気持ちと、生きるための貪欲な死にものぐるいの勢いとがあったのでしょう。カストリ雑誌から三号雑誌をかまわず軒並みに撮りまくり、創刊号はたいてい頼まれて撮ったものです。」
（林忠彦「カストリの頃。」林忠彦写真集『カストリ時代』所収）

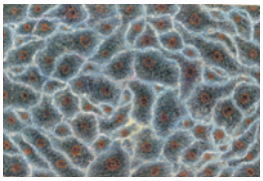
艦上相撲大会　横須賀　1941年撮影

語り合う戦災孤児（上野公園）1946年撮影

展示室5　まど・みちおコーナー

今回の展示内容は8/31（金）までです。

まどさんは、５０歳代はじめの３年間、集中的に抽象画を描いています。作品には日付が入れられているものもあるので描かれた日を特定することができます。
1週間続けて毎日のように描いている時期があったり、1日に2枚描いている日があったり、絵画制作に没頭していたことがそこからも見てとれます。


「波光」1961（昭和36）年8月15日

「（タイトルなし）」1961（昭和36）年8月16日

徳山の歴史 特設コーナー

徳山藩最後の藩主　毛利元蕃とその時代 6/30（土）まで展示中

明治維新150年にあわせて、幕末から維新にかけての激動の時代に徳山藩主であった、毛利元蕃にスポットをあてて、その時代を資料とともに紹介しています。
文久3（1863）年8月18日、京都では会津藩や薩摩藩ら公武合体派により攘夷派を一掃するクーデター（八月十八日の政変）がおこり、攘夷派の公卿7人が京都を追われ、山口をめざしました。
この「七卿落図」は、雨の中、京都の妙法院を出発する様子が描かれています。長州藩兵に守られた7人は兵庫津から海路、三田尻を目ざしました。そのうちの5人の乗った船が嵐にあい、8月27日、徳山の港に上陸。元蕃のもてなしを受けています。

七卿落図（徳山毛利家蔵）

美術博物館探検ツアー

美術博物館の裏側をのぞいてみよう！
参加者募集
ワクワク！ドキドキ！さぁどんな体験ができるかな？

■日　時　8月4日（土）
午後1時30分～3時30分（予定）
■場　所　周南市美術博物館
■対　象　小学4、5、6年生、中学生とその保護者の方　市外の方も参加OKです！
■定　員　10組（お子さまだけでの参加はできません）
■参加料　無　料

■お申し込み　往復はがきに①住所、②参加者全員の氏名・年齢③お子さまの学校名・学年、④電話番号を明記のうえ、周南市美術博物館（〒745-0006 周南市花畠町10-16）までお送りください。
■締　切　7月20日（金）必着
※希望者多数の場合は抽選となりますので、ご了承ください。

美博（びはく）クイズ～！〈53〉　こたえ

今回は「ひつじのショーン展（てんかいさいきねん）」開催記念として「ふわもこひつじのアイスカフェオレ」500円（税込）を用意しているよ！
口（くち）あたりもふんわり。
ココアパウダーの中（なか）の真（ま）っ白（しろ）な子（こ）ひつじがかわいいね♪

日通の えころじこんぽ
お見積り無料。まずはお電話を！
0120-154022（ひっこしはにっつう）
www.nittsu.co.jp/hikkoshi/

ART and HISTORY インフォメーション

周南	周南市美術博物館 ☎0834-22-8880	■「アードマン・アニメーションズ 設立40周年記念 ひつじのショーン展」 ～6／24(日)
	周南市郷土美術資料館 ☎0834-62-3119	■「コレクション展」 6／30(土)～8／26(日)
		■尾崎正章常設展「アトリエの風景」 6／30(土)～9／2(日)
防府	毛利博物館 ☎0835-22-0001	■明治維新150年記念企画第1弾 毛利敬親の藩政改革 6／2(土)～7／8(日)
山口	山口県立美術館 ☎083-925-7788	■浦沢直樹展　描いて描いて描きまくる ―山口の巻― ～6／17(日)
	中原中也記念館 ☎083-932-6430	■中也、この一篇――「帰郷」 ～7月29日(日)
萩	山口県立萩美術館・浦上記念館 ☎0838-24-2400	■山口県・山東省友好協定締結35周年記念 山東のやきものを楽しむ 6／5(土)～7／16(月・祝)
	萩博物館 ☎0838-25-6447	■新収蔵庫完成記念企画展 『萩博　美のイッピン!』 ～6／3(日)
長門	香月泰男美術館 ☎0837-43-2500	■香月泰男 風景へのまなざし―日本編― ～7／5(木)
下関	下関市立美術館 ☎083-245-4131	■[明治150年記念特別展示] 狩野芳崖とその系譜 ～6／17(日)
	下関市立歴史博物館 ☎083-241-1080	■明治維新150年記念企画展 海峡の幕末維新 ～9／2(日)
島根	島根県立石見美術館 ☎0856-31-1860	■モダン・アートに出会う 5つの扉 ―和歌山県立近代美術館名品展 ～6／17(日)
広島	広島県立美術館 ☎082-221-6246	■ボストン美術館　パリジェンヌ展 時代を映す女性たち ～6／10(日)
	広島市現代美術館 ☎082-264-1121	■[特別展] オノ・ヨーコ 《マイ・マミー・イズ・ビューティフル》 ～6／17(日)
	ひろしま美術館 ☎082-223-2530	■[特別展] ねこがいっぱい　ねこアート展 ～ 6／24(日)
	ふくやま草戸千軒ミュージアム ☎084-931-2513	■[春の展示]広島ものづくり ―塩・備後表・備後絣・伝統的工芸品― ～6／3(日)
福岡	九州国立博物館 ☎050-5542-8600	■[特別展] 至上の印象派展 ビュールレ・コレクション ～7／16(月・祝)
	福岡県立美術館 ☎092-715-3551	■息を呑む繊細美 切り絵アート展 ～6／3(日)
	北九州市立美術館・本館 ☎093-882-7777	■森山安英　解体と再生 Decomposition & Recomposition ～7／1(日)
	北九州市立美術館・分館 ☎093-562-3215	■ブルーノ・ムナーリ 6／23(土)～8／26(日)

～永源山公園の中にある美術館～

周南市郷土美術資料館・尾崎正章記念館

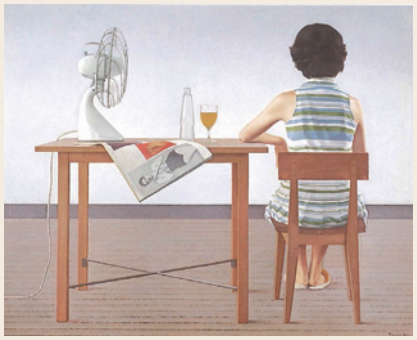
■9時30分～17時(入館は16時30分まで)
■観覧料：一般200円(160円) 学生100円(80円)
(　)内は20名以上の団体 ※18歳以下および70歳以上無料
※身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳、戦傷病者手帳等をご持参の方とその介護の方は無料
■休館日：月曜日 ※ただし5/29(火)～6/29(金)は展示替え・施設メンテナンスのため休館

コレクション展

寺井力三郎　平野敏子　土居 健

6月30日(土)－8月26日(日)〈中・小展示室〉

今回は当館のコレクションの中から、寺井力三郎、平野敏子、土居 健の作品をご紹介します。
三者三様の個性豊かな作品世界をぜひお楽しみください。



寺井 力三郎「扇風機」 1977年　油彩・キャンバス

土居 健「渓流（長門峡）」 1990年 多色木版

平野 敏子「静物(ヒマワリとウクレレ)」 2009年 油彩・キャンバス

尾崎正章常設展「アトリエの風景」

〈大展示室〉 6月30日(土)～9月2日(日)

今年度は尾崎の描いたさまざまな風景を紹介しています。２回目は、画家として一番身近な「アトリエの風景」がテーマです。自画像をはじめ女性像や花など、画家が日常的に向き合った対象を絵を通してご覧いただければと思います。

「花模様（一）」1964年頃　油彩・キャンバス

ミニコラム ガス燈

水無月。雨粒が緑の葉のうえで軽やかにおどる、入梅の季節になりました。

昨年友人の案内で、鎌倉の明月院を訪れました。明月院は別名「あじさい寺」という名で知られ、6月になると約2500株ある淡青色のヒメアジサイが、参道から境内を鮮やかに染め上げます。本堂には、「悟りの窓」とよばれる丸窓があり、そこから手入れされた庭園を望むことが出来ます。円形の窓は「大宇宙」や「禅と円通」の心を表し、そこに向きあうことで悟りの境地へ導かれるとされています。その前に立ち止まりしばらく丸窓を通して眺めていると、不思議に心が落ち着き、無心になっていくのを感じました。

文化会館では、6月にさだまさしコンサートが開催されます。当館でも多くの方々にチケットをお求めいただき、あっという間に完売、その人気の高さがうかがえます。

「秋桜」「案山子」など人生の節目にそっと寄り添ってくれる曲の数々、そして何よりさだまさしの軽妙なおしゃべりが、皆さんの心を温かく包んでくれるのだと思います。

私のおすすめの曲は「雨やどり」。雨やどりで出会った男性に恋をし、偶然にも再会、そしてプロポーズされるというストーリーがユーモアたっぷりに描かれた作品。この曲を耳にするたび、今でもクスッと笑ってしまう素敵な一曲です。

さだまさしが歌を通して見せてくれる世界、どんな楽しいコンサートになるのでしょう。ステージライトにほんのり照らされた客席の皆さんの笑顔を想像しつつ。

（西村真美）